

公共事業再評価調査

整理番号 H25-20

担当部課名	県土整備部 河川砂防課	電話番号	017-734-9663
		E-MAIL	kasensabo@pref.aomori.lg.jp

再評価実施要件	<input type="radio"/> 未着工 <input type="radio"/> 長期継続 (年) <input checked="" type="radio"/> 再評価後 (5 年) <input type="radio"/> その他 ()
---------	--

1 事業概要

事業種別	河川事業	事業主体	<input checked="" type="radio"/> 県 <input type="radio"/> 市町村 <input type="radio"/> その他 ()																																																		
事業名	広域河川改修事業	地区名等	旧十川	市町村名	五所川原市																																																
事業方法	<input type="radio"/> 国庫補助 <input checked="" type="radio"/> 交付金 <input type="radio"/> 県単独 財源・負担区分 <input checked="" type="radio"/> 国 50 % <input checked="" type="radio"/> 県 50 % <input type="radio"/> 市町村 % <input type="radio"/> その他 %																																																				
採択年度	昭和 45 年度 (用地着手 昭和 45 年度 / 工事着手 昭和 45 年度)																																																				
終了予定年度	平成 28 年度 (平成 年 月 工期変更 (当初計画時 平成 年度))																																																				
事業目的	<p>岩木川の右支川である旧十川は、十川の切替工事により、その源を五所川原市街地の十川沿いに発し、金木川等の支川を合わせて、岩木川に合流する流域面積は約 240km²、流路延長は約17kmの一級河川である。また、旧十川が合流する岩木川本川は、大臣管理区間であり、五所川原地点で、概ね約40年に1回の確率で発生する規模の洪水による災害発生の防止及び軽減を整備目標にしている。</p> <p>当河川は、現況流下能力が低く、これまで度々浸水被害が発生していることから、自然環境の保全に配慮しながら河川改修工事を行い、概ね50年に1回の確率で発生する規模の洪水を安全に流下させて、旧十川沿川の人家や田畑を洪水被害から守る。</p>																																																				
主な内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>再々評価時</th> <th>再々々評価時</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>築堤</td> <td>17,560 m</td> <td>17,560 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>掘削</td> <td>17,560 m</td> <td>17,560 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>道路橋</td> <td>13 箇所</td> <td>13 箇所</td> <td>0 箇所</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0 0</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業内容は、整備計画報告時と比較して変更はない。 総事業費の増は、建設費の精査による増である。 【計画確率規模：1/50】</p>					区 分	再々評価時	再々々評価時	増 減	築堤	17,560 m	17,560 m	0 m	掘削	17,560 m	17,560 m	0 m	道路橋	13 箇所	13 箇所	0 箇所				0 0																												
区 分	再々評価時	再々々評価時	増 減																																																		
築堤	17,560 m	17,560 m	0 m																																																		
掘削	17,560 m	17,560 m	0 m																																																		
道路橋	13 箇所	13 箇所	0 箇所																																																		
			0 0																																																		
事業費	<p>○再々評価時総事業費 19,040 百万円 (単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>～22年度</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>小 計</th> <th>26年度～</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計 画</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>① 18,948</td> <td>1,292</td> <td>20,240</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>()</td> <td>② (7,803)</td> <td>(532)</td> <td>(8,335)</td> </tr> <tr> <td>(平成25年2月変更)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>16,989</td> <td>71</td> <td>100</td> <td>130</td> <td>③ 17,290</td> <td>2,950</td> <td>⑤ 20,240</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>(6,760)</td> <td>(11)</td> <td>(0)</td> <td>(0)</td> <td>④ (6,771)</td> <td>(744)</td> <td>⑥ (8,335)</td> </tr> </tbody> </table>						～22年度	23年度	24年度	25年度	小 計	26年度～	合 計	計 画					① 18,948	1,292	20,240	(うち用地費)	()	()	()	()	② (7,803)	(532)	(8,335)	(平成25年2月変更)								実 績	16,989	71	100	130	③ 17,290	2,950	⑤ 20,240	(うち用地費)	(6,760)	(11)	(0)	(0)	④ (6,771)	(744)	⑥ (8,335)
	～22年度	23年度	24年度	25年度	小 計	26年度～	合 計																																														
計 画					① 18,948	1,292	20,240																																														
(うち用地費)	()	()	()	()	② (7,803)	(532)	(8,335)																																														
(平成25年2月変更)																																																					
実 績	16,989	71	100	130	③ 17,290	2,950	⑤ 20,240																																														
(うち用地費)	(6,760)	(11)	(0)	(0)	④ (6,771)	(744)	⑥ (8,335)																																														

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

(A) ・ B ・ C

事業の進捗状況	事業費割合 (うち用地費)		計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗
			85.4 % [③/⑤]	91.2 % [③/①]
			(81.2 %) [④/⑥]	(86.8 %) [④/②]
	主要工種	築堤工 (2,923.0百万円)	85.4 %	91.3 %
毎割合	掘削工 (2,466.2百万円)	79.8 %	85.2 %	
(事業費)	道路橋 (2,408.3百万円)	100.0 %	106.8 %	
説 明	<ul style="list-style-type: none"> 旧十川工区は、下流から約8.5kmまで改修が完了し、事業は計画どおり進んでいる。 今後は、旧十川工区の概成に向けて整備を促進するとともに、金木川工区の改修を進める。 			
問題点・解決見込み	<ul style="list-style-type: none"> 事業を進めるにあたっての阻害要件はなく、順調に事業の進捗を図ることが出来る。 			
事業効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 旧十川工区は下流から約8.5kmまで改修が完了しており、整備効果が発現している。 金木川工区は下流部L=1,700m区間は1/5規模で一次改修済であり、その上流部の捷水路区間は1/5規模でH15年度までに整備が完了し整備効果が発現している。 			

(2) 社会経済情勢の変化

(A)・B・C

社会的評価	全国・本県における評価	【全国の評価】 近年の異常気象により、全国各地で局地的豪雨等による浸水被害が発生しており、これら河川の災害対策及び治水安全度の向上が急務となっている。 近年の河川環境に配慮した河川整備に対する関心の高まりに対し、自然環境に配慮した河川整備が求められている。	【県内の評価】 県内においても、平成16年、平成18年、平成23年等の豪雨による浸水被害が各地で発生しており、今後も治水安全度の向上を図るため、河川改良事業を進めていく必要がある。 地域住民の河川環境への関心は高く、自然環境に配慮した河川整備が求められている。	
	当地区における評価	<ul style="list-style-type: none"> ・旧十川工区は、昭和56年8月及び平成2年9月に浸水被害を受けている。 ・金木川工区は、平成2年9月及び平成14年8月に浸水被害を受けている。 ・このため、両工区とも治水安全度を向上させる必要がある。 		
必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・旧十川は一級河川であるが、本事業区間は国直轄管理区間外で、河川管理者は県であることから、事業主体は青森県である。 ・想定氾濫区域内には、旧十川工区、金木川工区合わせて約1,900人が居住し、想定氾濫被害額は約574億円と見込まれる。 ・旧十川工区で平成2年、金木川工区で平成2年、9年、14年と度々浸水被害が発生している。 ・今後とも浸水被害解消のため、計画的に整備を進める必要がある。 		a. b	
適時性	<ul style="list-style-type: none"> ・旧十川工区では昭和56年8月(浸水家屋807戸、浸水面積1,152ha)、平成2年9月(浸水家屋269戸、浸水面積65ha)、金木川では平成2年9月(浸水家屋74戸、浸水面積258ha)、平成14年8月(浸水家屋50戸、浸水面積22ha、250世帯1,000人に避難勧告発令)と浸水被害が発生した。 ・旧十川工区の未改修区間では計画高水流量910m³/sに対して、概ね80%である。 ・金木川工区では、上流の人家連担部の流下能力が、H15年度末までに70m³/Sから270m³/S(1/5規模)に向上したが、計画高水流量510m³/sに対して、概ね53%しかない。 		a. b	
地元の推進体制等	<ul style="list-style-type: none"> ・地権者や地域住民は本事業の趣旨や目的を十分理解していただいております、円滑に事業が進んでいる。 ・金木川工区は、平成14年8月の豪雨により甚大な被害を受けたことから、国へ河川改修事業促進の緊急要望が出された。 		a. b	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・想定氾濫区域内には、国道339号、津軽鉄道等が通っていることから、氾濫時における交通機関への影響が危惧される。 ・護岸は必要最小限に止めるとともに、河岸は緩い勾配とし植生で覆うなど、川が本来有している生物の良好な生育環境や自然景観の保全に努め、良好な水辺が創出されることにより、地域住民にとっての安らぎの空間が期待できる。 			

(3) 費用対効果分析の要因変化

(A)・B・C

区分	主な項目	再々評価時	再々々評価時	増減
費用項目 (C)	(1) 建設費	32,900 百万円	35,635 百万円	2,735 百万円
	(2) 維持費	4,100 百万円	4,162 百万円	62 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総費用	37,000 百万円	39,797 百万円	2,797 百万円
便益項目 (B)	(1) 治水	49,000 百万円	71,135 百万円	22,135 百万円
	(2) 残存価値	400 百万円	236 百万円	△ 164 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総便益	49,400 百万円	71,371 百万円	21,971 百万円
B / C		1.34	1.79	
費用対効果分析 (B/C)	【費用対効果分析手法】 (分析手法、根拠マニュアル等) <ul style="list-style-type: none"> ・治水経済調査マニュアル(案)：平成17年4月(国土交通省 河川局) ・各種資産評価単価及びデフレーター：平成25年2月(国土交通省 河川局) 			a. b
計画時との比較	【計画時との比較における要因変化】 <ul style="list-style-type: none"> ・建設費の費用の増は、総事業費の見直しに伴う増及び評価基準年の見直しに伴う増である。 ・治水の便益の増は、評価基準年の見直しに伴う増である。 			a. b

(4) コスト縮減・代替案の検討状況

(A)・B・C

コスト縮減	【コスト縮減の検討状況】 ・河床掘削等による発生土を築堤、旧川の埋立てに流用し、経費の縮減を図っている。 ・管理用道路の路盤材に再生砕石を使用し経費の縮減を図っている。	a. b
代替案	【代替案の検討状況】 ・洪水を一時的に貯留するダム、遊水池を代替案として検討した。 ①ダム案：良好なダム適地はない。 ②遊水池：広大な水田が喪失するため、社会経済に及ぼす景況が大きすぎる。	a. b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点

(A)・B・C

住民ニーズの把握状況	【住民ニーズの把握方法】 ・地区毎に工事説明会や用地説明会を開催し、地区住民の意見を聞くと共に、個別の用地交渉の場においても住民の要望等を把握している。	【住民ニーズ・意見】 洪水の被害を度々うけているため、事業の早期完成を望む声が多い。	a. b
環境影響への配慮	【開発事業等における環境配慮指針への対応】 (1)対応状況 ● 配慮している ○ 配慮していない (2)区分 ● 農林地等の緑地や植生の改変 ● 地形や地盤の改変 ● 水系や水辺の変更 ○ 海域環境の変更 ● 敷地整備段階での重機の使用 ● 土砂等の搬出・搬入 ○ 廃棄物処理等 ○ 道路(車歩道)、雨水排水路の設置 ● 基礎や地下建造物の建設 ○ 低層建築物の建設 ○ 高層建築物・大規模施設等の建設に係る環境配慮 ○ 高架構造物の建設 ○ 海底・海中建造物の設置や建設 (3)特に配慮する対応内容 ・護岸は必要最小限に止めるとともに、河岸は緩い勾配とし植生で覆うなど、川が本来有している生物の良好な生育環境や自然景観の保全に努める。 工事を行う際には、地域の生活環境に配慮し、低排出ガス、低騒音、低振動の重機械を使用する。		a. b
地域の立地特性	(地域指定) 都市計画区域、特別豪雪地帯 (災害の記録) S50.8 旧十川 浸水面積30ha (本事業により対応) S52.8 旧十川 浸水面積15ha (") S56.8 旧十川 浸水面積122ha、浸水戸数342戸、金木川 浸水面積107ha、浸水戸数5戸 (") H2.9 旧十川 浸水面積957ha、浸水戸数4戸、金木川 浸水面積162ha、浸水戸数19戸 (") H14.8 金木川 浸水面積223ha、浸水戸数48戸 (") (危険箇所情報) なし		

3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	● 継続 ○ 計画変更 ○ 中止 ○ 休止
評価理由	全ての項目でA評価であるほか、治水安全度が低く、度々浸水被害を受けていることから、旧十川沿川住民の生命財産を洪水被害から守る本事業は、継続して実施する必要がある。
備考	

4 公共事業再評価等審議委員会意見

委員会意見	○ 対応方針(案)どおり ○ 対応方針(案)を修正すべき
委員会評価	○ 継続 ○ 計画変更 ○ 中止 ○ 休止
附帯意見	(附帯意見がある場合に記載)
評価理由	(委員会意見が「対応方針(案)を修正すべき」の場合に記載)